



森のなかま

2022年2月号
NO.164 (継続309号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

《森林技術部会主催》

径路整備研修会

日時： 2021年12月18日(土) 9:00~15:00 晴れ

場所： 伊勢原市三ノ宮 ひじりの森

講師： 森林技術部会 佐藤健⑤ 滝澤⑤ 江上⑬

部会長： 岩田⑭

スタッフ： 小野⑦ 齋藤⑬

参加者インストラクター：10名

(記 大森 善雄⑯ 写真 小野 幸広⑦)

毎年一回の割合で森林技術部会の径路整備研修会が伊勢原市三ノ宮のひじりの森里山整備活動エリアで開催されています。私は昨年に引き続き2回目の参加になります。本日の参加者は森林技術部会長岩田さん以下16名で行われました。

参加者を3班に分けて各リーダーが午前中は丸太筋工、午後は径路の路肩補修の実習の研修を行いました。

丸太筋工の材料(班単位)は横木(直径9cm長さ2m丸太)3本と、杭(直径9cm長さ1m丸太)3本と番線とシノ等の道具を準備しました。作業内容としては、まず1mの丸太を真っ直ぐに打ち込みます。その時にロープで三人がかりでお互いに引っ張り合いながら垂直を出すことが大変でした。次に苦戦したのが番線の結束です。横木の下に番線を入れてシノを使って杭と横木を結束するのですが、番線は杭の中央部でクロスするようにならなければなりません。更に、シノで番線を巻く時に番線が緩まない様に巻かなければなりません。番線のクロスの出来具合を良く観察すると作業員の腕前が滲み出ています。



路肩の補修の材料は横木(直径9cm長さ2m丸太)4本と、杭(直径9cm長さ60cm丸太)8本です。この作業は土壌崩落防止を目的として、径路の谷側の崩れを防止するとともに、径路であることを明確にするために路肩材に横木を配置して杭打ちをしました。この作業で大変なことは、材料を現場まで作業員が運び上げなければならないことです。径路には竹で補修がしてあるところもありましたが朽ちているところもありました。最後に横木と杭をカスガイを使用して固定しました。この作業の仕上げは径路を歩く人の安全を考えて整地をすることです。

冬の短い時間でしたが穏やかな一日でした。インストラクターの皆さんも自己研鑽を重ねて新たな発見をして自分の活動場面に生かしてみましょ。

参加者一覧 敬称略 数字は期

大澤	10	鈴木淳	14	牧石	14	水野	14	大見	15
末原	15	大友	16	大森	16	岡村	16	中澤靖	16

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

私たちは古くから野山の草木のめぐみの中でくらししてきました。薬としての利用もその一つです。おなかが痛い時、傷を負った時など、葉の煎汁を飲んだり、傷口にあてたりして処置してきたのです。経験の中から生まれたこのような薬は民間薬とか伝承薬とされています。

野山を歩けばよく見かけるクマザサの青汁は胃のもたれに効果がありますし、カタクリの鱗茎は擦り傷に、カラスウリの実は咳止めに効果があります。クリの渋はウルシかぶれ、虫刺されに効きます。草餅に使われモチグサの名を持つヨモギは喘息に効果があり、風呂に入れば腰痛、腹痛に良いとされています。多くの植物に薬効があり、数え上げればきりがありません。

そしてその多くが人々の体験によって見いだされたのです。初めてこれらの植物を試した人は全くの偶然であったかもしれませんが、その効き目が確認されて伝承されてきたのです。そして現在、その有効成分が明かにされ、薬効が科学的に裏付けされているものも多いのです。

民間薬に相当するものはわが国に限らずどこの国にも、その土地々に生育する植物を対象に見いだされ利用されています。最新の科学技術によって作り出される化学合成薬品に比べれば遅効性で効き目は弱いのが通常ですが、副作用も少なくじっくりと時間をかけて効いてくる民間薬は今でもその役目を十分に果たしています。合成薬品の効果が高いのは、少しでも高い効果をねらって知恵を絞って合成するのですから当たり前のことです。民間薬の成分の中にはその成分を参考に、さらに高い効果を持つ薬を開発することに利用されるものもあります。ヒトの考えでは想像もつかないような構造を植物の成分が教えてくれているのです。天のめぐみ、森のめぐみと言えるでしょう。

第43回 薬としての野山の草木

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

ところで、初めて植物を試すには勇気がいったことでしょう。薬になるか毒になるかわからないのです。実際に数は少ないかもしれませんが死に至るような有毒植物もあるのですから。



伝説上の人物 神農 (イラスト Part2)

お隣の中国には数千年前に医療と農業を人々に広める神農という人がいて植物をなめ、食し、自らも毒にもあたり、薬としての効果を確かめ、中国最古の薬草の本「神農本草経」をまとめたと言われています。この書が中国伝統医学のもとになっています。神農は伝説上の人物で実際には後世になって多くの人によってこの書は書かれたと言われています。わが国はこの書の薬物の影響を大きく受けながらもわが国独自に発展し、漢方薬となりました。そして漢方薬のように中国から伝えられた薬用植物以外にもセンブリ、ゲンノショウコ、ドクダミなどのようにわが国独自に古来使用されてきたものなども民間薬として役立ってきたのです。

イラスト 神農 Part2 (2017年作)

前広報部 長尾 晴子(旧姓 大塚) 11期

かながわ森林インストラクターの会紹介

広報部 黒川⑭

認定 NPO 法人「かながわ森林インストラクターの会」の主たる活動は、県民参加の森づくり・パートナー企業の森林活動・学校関係の森林活動へのインストラクターの派遣ですが、それを支える組織の紹介、各部門の紹介を本号からさせていただきます。まず、組織の概要から始めます。

下図が、当会の組織表です。

会のホームページ www.forest-kanagawa.jp にも掲載されていますので、ぜひご覧ください。

① 会の潤滑な運営を推進している **管理部門**として、総務部、会計部、広報部、ネットワーク派遣管理部があり、各会議の運営、渉外、予算の策定、会計処理、会報の作成発行、森林活動の企画、調整、当会会員からのインストラクター派遣の管理を行っています。

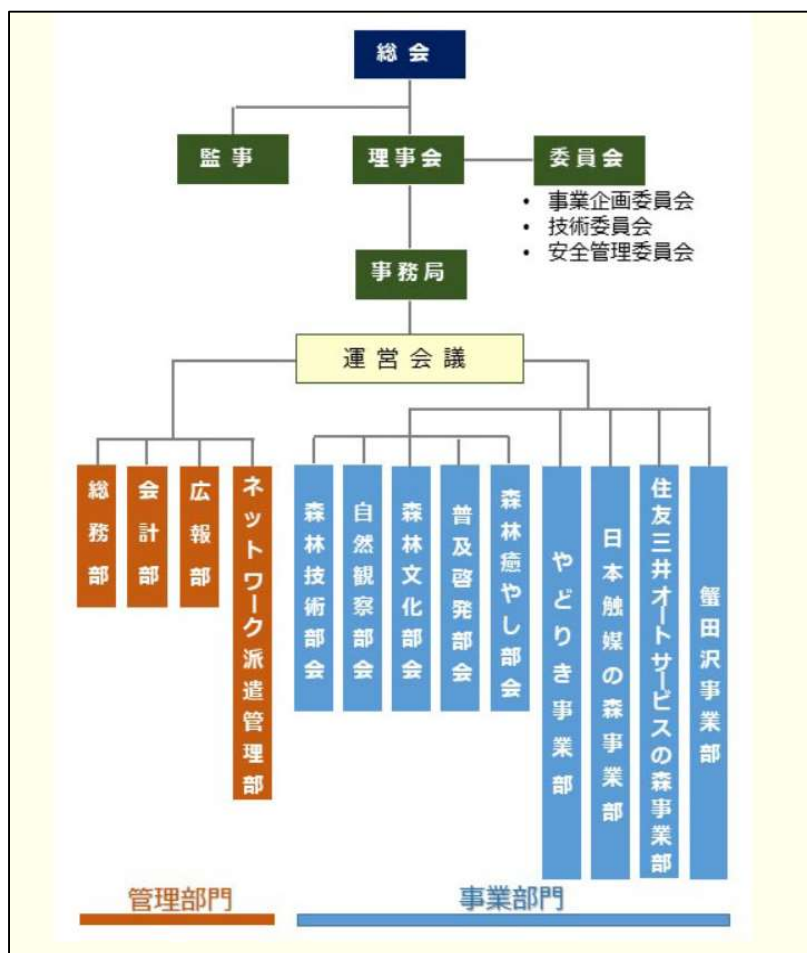
② 会員の森林活動のスキルアップを担っているのが、**事業部門の各部会**です。

森林技術部会、自然観察部会、森林文化部会、普及啓発部会、森林癒やし部会があります。各部会では、

間伐、下刈りなどの森林作業・研修
自然観察会の運営・研修
森林文化に関する講演会の開催
イベント用などのクラフト製作の習得
環境教育の実施
森林癒やし活動の実践と研修

を実施しており、会員はいずれかの部会に属しています。

③ 各企業とタイアップした拠点での森林活動を行っているのが**事業部門の各事業部**です。拠点名をとって、やどりき事業部、日本触媒の森事業部、住友三井オートサービスの森事業部、蟹田沢(がんだざわ)事業部があります。



また、理事会直結の**委員会**として、事業企画委員会、技術委員会、安全管理委員会があり、新しい事業の企画・立案、インストラクターの技能向上、標準作業の策定、安全な作業を遂行していくための管理方法策定を行っています。

以上が、かながわ森林インストラクターの会の組織概要でしたが、来月号から各部門の部長、部会長、事業部長からの各部門の紹介記事を順次掲載していきますので、ぜひご覧ください。

活動短信

今回の掲載は R3 年 11 月 1 日から 11 月 23 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

2 月(弥生)(旧暦 1 月睦月)の

二十四節気と七十二候

立春 2/4 頃

春の始まり、氷が溶け、
ウグイスが鳴き、フキノトウ
が出るころ

雨水 2/19 頃

降る雪が雨に代わる。
草木がめぶき、農耕を始
めるころ。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので)
写真もあれば添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

イ インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠

以下、本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック
をお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 松田町立寄小学校 森林環境教育

(丹沢大山自然再生委員会 助成事業)

日 令和 3 年 11 月 1 日(月) 晴れ

場 やどりき水源林 (林道コースなど)

参 小学生 6 名、教員 1 名

イ L 井出①、滝澤⑤、松本⑪、古館⑬

2018 年度から実施している、丹沢大山自然再生委員
会との共催事業「森林環境教育」。昨年度はコロナ禍に
よる緊急事態宣言が発令されたためリモートで実施した
が、本年度は 2 年ぶりにやどりき水源林で実施した。

<活動内容>

- ① やどりき水源林内の観察 (林道コース・広場)
森林の役割や仕組み、森林を守る人々の取り組みを知
る。
- ② 植物や動物など、水源林に棲む生き物に興味と
関心を持つ。(スギ・ヒノキなど植物の解説、種の拡
散、動物の頭骨の観察など。)
- ③ 水源涵養実験 (森林の緑のダムとしての機能を理
解する。)
- ④ 丸太切り (地元で育った森林に親しみを持つ。)



やどりき水源林の自然観察を通じて、森林の役割や仕
組み、水と森林のつながり、森林を守る人々の取り組み
などに気付かせることを主眼とし、森の樹木やきれいな
沢の水に触れるなど、子供達も十分に自然に触れ合うこ
とができたと思います。

さらに水源涵養実験や間伐材を使った丸太切りや、動
物の頭骨の観察を行うなど、短い時間でしたが多彩な活
動を行うことができました。(記・写真 井出 恒夫 ①)

◆ 厚木市立三田小学校

環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～
「水の中の生き物ウオッチング」

日 令和 3 年 11 月 15 日(月)9:00～12:00 晴れ

場 厚木市三田 515 厚木市立三田小学校

参 特別支援学級の 1～6 年生 32 名、教師 10 名

イ L 井出①、高橋③、足立④、内野⑨、大原⑬

(目的) 校内のプールには、普段目にするのこ
ない水生生物が生息している。これら水生生物を探し観察
することで、水の中の生物の存在と多様性を気付か
せ、生き物のつながり、環境とのかかわりを学ぶ。

1. 水生生物の採取 (校内のプール): 児童が水際に
近づくと危険なため、インストラクターがタモ網を
使い水生生物を採取。採取した生物を白バットに入
れて、安全な場所で児童が観察した。
2. 教室での抽出: 採取した生物を児童が容器に抽
出。ヤゴやマツモムシ、ユスリカの幼虫など多様な
生物を見つけることが出来た。
3. 解説: プールで良く見つかるヤゴ、およびプラン
クトンから始まる生き物のつながりについて解説を
行った、ヤゴでは動画を多く取り入れ、ヤゴの興味
深い生態の解説を行った。



特別支援学級の1年生～6年生の全学年が対象ということで、レベル合わせに苦労したが、生物採取や、動画での解説など、全学年興味を持って授業を行うことができた。

なお、11月8日に教諭、講師で授業内容や実施場所の確認など事前打合せを行った

(記・写真 井出 恒夫 ①)

◆ 横浜市立岩崎小学校 愛川体験学習

日 令和3年11月15日(月) 11:00～13:30 晴れ

場 相模原市 長竹承継分収林

参 先生5名、児童60名、計65名

財 (公財)かながわトラストみどり財団、古舘様、他1名

イ L 西出⑫、柏倉④、松本⑪、松石⑬、黒川⑭、
牧石⑮、小林⑯

青空が広がる絶好の小春日和でしたが、交通渋滞で学校の到着が1時間も遅れてしまって、残念でしたが間伐は見送りとして、コースター作りだけを行う事にしました。

子供達は班毎にヘルメットとフェースシールドを装着して大鋸2本を持って、インストラクターを先頭に活動現場に向かいました。現場では、以前に伐倒されたヒノキの内、なるべく新しい木を選んで、各班2グループに分かれてコースター作りに入りました。大きなノコギリですから初めは慣れないので中々うまくゆきませんが、その内、うまく引けるようになり、いい香りのするマイ・コースターができました。

コースター作りの後、ヒノキ林の中で昼食を取りました。このご時世ですから、少し間を取って黙食です。でも、空気のさわやかなヒノキ林の中での食事ですから、きっと、いつもより美味しく頂けたと思います。子供達は、汗をかきながら自分の力で作り上げたコースターをお土産に次の活動に向かいました。



ヒノキ林で順番にコースター作り

(記 写真 西出 健一⑫)

◆ 横浜市立日吉台小学校 枝打ち体験

日 令和3年11月18日(木) 10:30～12:30 晴れ

場 21世紀の森「平成25年成長の森」

参 大人6名、子供103名、計109名

財 寺本様、古舘様

イ L 牧石⑭、柏倉④、佐藤⑤、滝沢⑤、小野⑦、山崎⑦、
内野⑨、松本⑪、西出⑫、黒川⑭、大森⑯

平成25年成長の森で初めての枝打ち活動を実施しました。作業は10班に班分けを行い、更に班ごとでA、B班の2グループに分かれ、各グループで1本の杉の枝打ち作業を交代で実施しました。

最初は枝が密集している状態のため、枝をかき分けての作業に戸惑いでしたが、作業が進むに連れ作業



スペースが取れるようになると、時間を忘れ一生懸命に枝打ち活動が行われました。作業中盤で一斉休憩をとった後、後半の枝打ち作業に入るころには、インストラクターの補助なしで、枝座に対し平行に枝打ちができるようになりました。インストラクターは両サイドの枝打ち活動状況を中央で見守り、危険作業がない



か細心の注意と共に指導にあたりました。特に鋸を持たない手先の位置に常時注意を払い安全作業が行われました。

活動前のミーティングで、作業手順の確認、安全目標の確認等をしっかり行った結果、合計108本の杉の枝打ち作業を無事終了しました。皆様お疲れ様でした。(記、写真 牧石 稔⑭)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 横浜市立洋光台第四小学校

森林講話・丸太切り

日 令和3年11月18日(木) 9:00-11:00 晴れ

場 愛川ふれあいの村

参 52名(5年生児童47名 教師5名)

財 豊丸課長

イ L 松石⑬・森本⑤・野牛⑧・石垣⑮・岡村⑯

前日 愛川ふれあいの村に宿泊した皆さんが大きな荷物を背負って集合です。気持ちの良い秋の日に、室内での予定は急遽変更。野外での作業となりました。4班に分かれ、各インストラクターによる講話から始まります。

森林に関して活発な質問の出る班、静かに聞き入る班、周囲を散策しドイツ



ウヒの松ボックリ、マテバシイのどんぐりを眺めて触って興味津々、とそれぞれが森の役割を学び、秋の自然を楽しんだ後。

さあ、いよいよ丸太切り開始です。

直径8～13cm程の檜材を据え、真ん中に重石・押さえ役がスタンバイ。両端から切り始めます。



薄いコースター作りのはずが「それは花瓶を作るの?!」と問いたい長さ10cmを超える大物切りを狙

う児童が続出！初めて大鋸を挽く子供達ですが、引っかかりつつ、疲れつつも「あと少っしっ!」「がんば〜れ♪♪」のエールに押され、誰1人弱音を吐かずに切り終えた瞬間、思わず歓声と拍手が起こります！紙ヤスリで仕上げ、マイコースターの出来上がり。中には2個製作の強者もいます。子供達同士、声を掛け合い楽しみながらの協同作業となりました。

終わりの会では発言する沢山の手が上がり「森で働く人の苦勞がわかった」「切るのは大変だけど楽しかった!」と体験からのストレートな感想が続きました。大空の下、広い野原での作業で飛び交う生き生きとした声が響く時間を過ごしました。

(記 石垣 桃栄⑮ 写真 松石 藤雄⑬)

◆ 第13回 県民参加の森づくり 植栽

日 令和3年11月20日(土) 8:30-16:30 晴れ

場 箱根町仙石原(町有林)

参 合計101名(大人96名、子供5名)

財 大木様、藤本様

看 青木氏

安 滝澤氏・山口氏

イ L 松石⑬、山下⑪、齋藤⑥、角石⑮、大澤⑩、鈴木⑭、小林⑯、吉田⑪、小野⑮、原田⑯、野村⑭、西村⑮、末原⑮、内野⑨、祐也⑯、久慈⑯

オリエンテーションで、箱根町の方から、本活動の意義のご説明と激励をいただいた後、100名を超える参加者の方々は5班に分かれ、植栽に挑戦いただきました。樹種は、ヒメシャラ・イロハモミジ・ヤマザクラ・ヤマボウシ・コブシの5種類です。



各班で植樹方法のノウハウを伝授させていただくデモンストレーション実施後、おひとり大体7~8本植樹いただきました。終了時には植樹はすべて完了しました。

途中、参加者からは、ヒメシャラ植えたい！明後日雨なので、しっかり水が受けられるようにしてあげよう、やっぱり樹種を散らばって植えたほうが、花の時期が違って1年中楽しめるね、等、かなりきつい勾配での作業にも関わらず、集中しつつも楽しんでいらっしゃる様子が見受けられました。

また、バスの降車場所から作業場へは往復1時間以上かかりましたが、その道々もインストラクターに森のこと・活動に関する質問が相次ぎ、県民の方々の森づくりへの関心の高さをうかがい知ることができました。

幸いけが人もなく終了でき、参加者の皆様に改めての感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(記 久慈 真理⑯ 写真 松石 藤雄⑬)

◆ 横浜市立下末吉小学校 森林学習枝打ち

- 日 令和3年11月23日(火)10:30~12:30 晴れ
- 場 21世紀の森「平成25年成長の森」
- 参 大人4名、子供29名、計33名
- 財 寺本様、古舘様
- 人 L 牧石⑭、柏倉④、小野⑦、千葉⑦、西出⑫

前日の雨も上がり、当日の天気は回復しましたが、前日夜遅くまで雨が降り続いたため、当日インストラクター全員で活動場所の下見を行い活動可能と判断し、予定通り枝打ち活動を行いました。前日の雨の影響で一部の枝には水滴がついている状態のため、参加者には雨具の上着のみ着用していただき作業を行いました。

活動場所の平成25年成長の森に設置されている、名板を前にインストラクターは参加者に「成長の森」について説明を行ったのち、各班が担当する場所まで移動。荷物を班ごとにまとめた後、実際にインストラクターが枝打ちを行いながら、参加者に手順の説明を行った後、各班がさらにA、Bの2グループに別れ、各



グループが1本の杉の枝打ちが完了してから、次の木の枝打ちを行って行く作業手順で

進めました。

11時50分枝打ち作業終了、用具の清掃、各班別に参加者と意見交換を行い12時30分無事終了しました。(記、写真 ⑭牧石 稔)




かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

◆ やどりき事業部

植物班・動物班合同調査活動

- 日 令和3年11月20日(土) 晴れ
- 場 秦野峠林道とやどりき水源林
- 参 7名(水口⑨、波多野⑨、菊地①、松本⑪、上宮田⑪ 古舘⑬、國弘⑭)

日中は秦野峠林道のやどりき大橋から秦野峠までを往復し植物と動物の調査を行ないました。集合棟の隣のトイレでウスタビガが休んでいるのをみつけ、幸先の良い出発となりました。



ウスタビガ

ホソエカエデ、ハナノキ、エンコウカエデ、ヤマハンノキなどの素晴らしい紅葉のなかを歩きました。リュウノウギク、ヤクシソウの花が見られました。また、沿道の随所にリンドウとツルリンドウがきれいに咲いており、熱心に見比べました。クサボタン、テンナンショウ、コボタンズル、ハダカホウズキ、ムラサキシキブ、クマシデはすでに実となっていました。



リンドウ



テンナンショウ

林道脇のぬかるみにはシカの毛が残っており、泥浴びをしたぬた場であることがわかりました。テンの糞も複数みつけられました。



ぬた場

ミソサザイやモズ、ミツカドコオロギの鳴き声が聞こえ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、ガビチョウ、ベニシジミの姿が見られました。

水源林まで戻り一息休憩した後は、ムササビやモモンガが樹洞や巣箱を使用しているか入り口や幹を調べ、複数の生息痕を確認しました。ムササビが出てくることを期待して、日暮れに合わせて秦野峠林道ゲート脇の樹洞を観察しましたが、残念ながら出てきませんでした。次の機会の楽しみとします。(記 写真 國弘 明子⑭)

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

案内人は、12月～2月までお休みになります。

森の案内人はおりませんが、やどりき水源林を訪れることはできます。

「やどりき水源林ニュース」

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

●問合せ:

(公財)かながわトラスみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

TEL: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫 (11月号から)

Mail: kobayashi@ts-pocket.jp

原稿は随時受付けています。

編集後記

★トンガの噴火で思い出すのが1991年(平成4年)フィリピンルソン島の20世紀最大と言われたピナツボ山噴火です。私はこの時ミンダナオに仕事で行っていました。ミンダナオには直ぐには影響はなかったのですが、日本に帰るにはルソン島のマニラ国際空港からなので心配しましたが2週間後にマニラ空港から帰る事ができました。

空港には灰が、雪国育ちの私にはわかるのですが(軽/重はあるが)雪かきと似たような状況でした。

このピナツボ噴火の影響により日本は、翌年は冷夏、翌々年は長梅雨に見舞われ歴史的な大凶作に。「平成の米騒動」はこの時の話で、政府の備蓄米も枯渇するほどの緊急事態となり、外国米を輸入し食べたのです。

覚えていますか皆さん。尚、この時の政権は細川政権でした。(松本)

★雪解けを待って咲くカタクリの花が好きで山荘の庭を群落としく、毎年鱗茎を20個づつ植えている。紅紫色の花弁を上向きに反り返しうつぶいて咲く、けなげさが良い。実生からだの開花まで7~8年かかるそうだが、鱗茎からは翌春に楽しめる。不思議と思っていたが植えた覚えの無い場所に開花していることがしばしばある。それは蟻が拡散してくれているのこらしい。自然界の営みは夢があつて楽しい。(中澤)

★オミクロン株蔓延で、森林活動の計画立案や参加表明に多くの方が躊躇されています。それは人ばかりで、季節は廻り春がきて、自然は変わりなく、もうすぐタケノコが顔を出しますね。(小林)

★リハビリ代わりに、地元の緑地で伐り残したクヌギの株を、地際で二本伐りました。久しぶりの手鋸で息が上がります。いやあ~体力が落ちてしまったなあ、と独り言。休み休みの作業で二時間半もかかりましたが、達成感は格別。回復まであと一歩。(竹内)

第13回森林文化講演会のお知らせ

「丹沢の森とツキノワグマ」

~ツキノワグマを追って30年~

講師 長縄 今日子



日時:2022年2月13日(日曜日)

14:00~16:00 (開場 13:30)

場所:神奈川県立秦野戸川公園パークセンター2F 会議室

募集人数:20人(抽選) 後日希望者に配信予定。

締切:2月3日(木) 抽選発表 2月6日(日)

参加希望の方は s-instb12@jcom.zaq.ne.jp

1.お名前(フリガナ) 2.ご住所(市まで) 3.年代 4.期とNO

記入の上 菊地昭子(上記メール)まで

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ

加藤優美 阿藤壽孝 竹内明彦

柳澤千恵美 小林照夫 武田昭典

中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子